



# 新年（2023年）景気見通し

## ■ 昨年国内景気

四半期別の実質GDP成長率（季節調整系列、前期比年率換算）の推移は、次のとおりであり、景気は緩やかに持ち直している。

〔1～3月期〕▲1.8% ⇒ 〔4～6月期〕4.5% ⇒ 〔7～9月期〕▲0.8%

10～12月期は、コロナ感染が高水準となるも景気の緩やかな持ち直しが続くとみられ、2022年の実質GDP成長率は1.5～2.0%となろう。

## ■ 新年の景気

新年の国内景気は、ウイズコロナによって社会経済活動の正常化が進む一方で、物価上昇による消費回復の遅れや人手不足・供給制約による生産の停滞が懸念されるほか、海外経済の低迷も見込まれ、昨年よりも減速するとみられる。県内景気は、国内景気と同様、プラス成長となるものの昨年を下回る水準になるとみられる。

本稿では県内の主要な業界団体からご協力いただいたアンケート結果（後掲）も踏まえて、新年の景気見通しをとりまとめた。

### 1 国内経済の見通し

国内経済の現状と先行きについて、政府と日銀の判断は次のとおりである。

#### （1）内閣府「月例経済報告」(2022.12.21)

##### 【基調判断（12月）】

景気は、緩やかに持ち直している。

- ・個人消費 緩やかに持ち直している
- ・設備投資 持ち直している
- ・住宅建設 底堅い動きとなっている
- ・公共投資 底堅く推移している
- ・輸 出 おおむね横ばいとなっている
- ・生 産 持ち直しの動きに足踏みがみられる
- ・企業収益 一部に弱さがみられるものの、総じてみれば改善している
- ・雇用情勢 持ち直している
- ・消費者物価 上昇している

先行きについてはウイズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気

を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染動向に十分注意する必要がある。

#### （2）日銀「全国企業短期経済観測調査」(短観) [中小企業] (2022.12.14)

全国の中小企業(4,846社。うち製造業1,828社、非製造業3,018社。回答率99.4%)の業況判断指数（「良い」－「悪い」・%ポイント）は、次のとおりである。

中小企業	2022年9月調査		2022年12月調査	
	最近	12月予測	最近	3月予測
製造業	▲4	▲5	▲2	▲5
非製造業	2	▲3	6	▲1
全産業	0	▲4	4	▲2

(注)「最近」は回答時点を示す(以下同じ)

12月調査の業況判断指数(DI)は、製造業で▲2、非製造業で6、全産業で4となり、小幅ながら改善が進んでいる。DIのプラスが大きい業種は、製造業では「鉄鋼」(20)、「非鉄金属」(13)など、非製造業では「物品賃貸」(23)、



「情報サービス」(21)などである。一方、マイナスが大きい業種は、製造業では「自動車」(▲23)、「繊維」(▲20)などであるが、非製造業では二桁のマイナスとなった業種はない。

先行き(3月予測)は、製造業、非製造業、全産業がすべて悪化するとの予測であり、原材料価格の上昇や海外経済の減速によって厳しい状況が続くとの見方が多いと考えられる。

### (3) 令和5年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度(2022.12.22閣議了解)

#### 【令和4年度の経済動向】

我が国経済は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中、緩やかな持ち直しが続いている。その一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や欧米各国の金融引締め等による世界的な景気後退懸念など、我が国経済を取り巻く環境には厳しさが増している。

政府としては、こうした景気の下振れリスクに先手を打ち、我が国経済を民需主導の持続的な成長路線に乗せていくため、「物価高・円安への対応」、「構造的な賃上げ」、「成長のための投資と改革」を重点分野とする「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」(令和4年10月28日閣議決定)を策定した。その裏付けとなる令和4年度第2次補正予算等を迅速かつ着実に実行し、万全の経済財政運営を行う。

こうした下で、令和4年度の我が国経済については、実質GDP成長率は1.7%程度、名目GDP成長率は1.8%程度となることが見込まれる。消費者物価(総合)については、エネルギーや食料価格の上昇に伴い、3.0%程度の上昇率になると見込まれる。

#### 【令和5年度の経済見通し】

令和5年度については、「令和5年度の経済

財政運営の基本的態度」に基づき、物価高を克服しつつ、計画的で大胆な投資を官民連携で推進するなど新しい資本主義の旗印の下、我が国経済を民需主導で持続可能な成長路線に乗せるための施策を推進する。こうした取組を通じ、令和5年度の実質GDP成長率は1.5%程度、名目GDP成長率は2.1%程度と民間需要がけん引する成長が見込まれる。消費者物価(総合)については、各種政策の効果等もあり、1.7%程度の上昇率になると見込まれる。

ただし、引き続き、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスク、物価上昇や供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

#### ●主要経済指標(対前年度比増減率)

	令和3年度 実績 (%)	令和4年度 実績見込み (%程度)	令和5年度 見通し (%程度)
実質GDP	2.5	1.7	1.5
内需寄与度	1.8	2.3	1.6
外需寄与度	0.8	▲0.5	▲0.1
名目GDP	2.4	1.8	2.1

### (4) 日銀「経済・物価情勢の展望」(2022.10.31)

#### a わが国の経済・物価の現状

わが国の景気は、資源高の影響などを受けつつも、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、持ち直している。

物価面では、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、エネルギーや食料品、耐久財などの価格上昇により、3%程度となっている。また、予想物価上昇率は上昇している。

#### b 経済・物価の中心的な見通し

政策委員の「大勢見通し」(2022~2024年度)は、次のとおりである。



### 【実質GDP】

(対前年度比、%。<>内は中央値)

年度	実質GDP
2022年度	+ 1.8 ~ + 2.1 <+ 2.0 >
2023年度	+ 1.5 ~ + 2.0 <+ 1.9 >
2024年度	+ 1.3 ~ + 1.6 <+ 1.5 >

### 【消費者物価指数 (除く生鮮食品)】

(対前年度比、%。<>内は中央値)

年度	消費者物価指数
2022年度	+ 2.8 ~ + 2.9 <+ 2.9 >
2023年度	+ 1.5 ~ + 1.8 <+ 1.6 >
2024年度	+ 1.5 ~ + 1.9 <+ 1.6 >

わが国経済の先行きを展望すると、見通し期間の中盤にかけては、資源高や海外経済減速による下押し圧力を受けるものの、感染症や供給制約の影響が和らぐもとの、緩和的な金融環境や政府の経済対策の効果にも支えられて、回復していくとみられる。

見通し期間の中盤以降は、所得から支出への前向きな循環メカニズムが経済全体で徐々に強まっていくなかで、わが国経済は、潜在成長率を上回る成長を続けると考えられる。ただし、ペントアップ需要の顕在化による押し上げ圧力が和らいでいくため、成長ペースは徐々に鈍化していく可能性が高い。

物価の先行きを展望すると、消費者物価 (除く生鮮食品) の前年比は、本年(2022年)末にかけてエネルギーや食料品、耐久財などの価格上昇により上昇率を高めたあと、これらの押し上げ寄与の減衰に伴い、来年度(2023年度)半ばにかけて、プラス幅を縮小していくと予想される。その後は、マクロ的な需給ギャップが改善し、中長期的な予想物価上昇率や賃金上昇率も高まっていくもとの、再びプラス幅を緩やかに拡大していくとみられる。

## 2 世界経済の見通し

### (1) 内閣府「月例経済報告」(2022.12.21)

世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。先行きについては、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めが進む中での金融資本市場の変動や物価上昇、供給面での制約等による下振れリスクの高まりに留意する必要がある。

アメリカでは、景気は緩やかな持ち直しが続いている。先行きについては、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、金融引締めに伴う影響等による下振れリスクの高まりに留意する必要がある。

アジア地域については、中国では、景気は感染の再拡大の影響により、持ち直しの動きに足踏みがみられる。先行きについては、各種政策の効果もあり、持ち直しに向かうことが期待される。ただし、不動産市場の動向や経済活動の抑制の影響等を注視する必要がある。

ユーロ圏では、景気は緩やかに持ち直している。ドイツにおいては、景気はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。先行きについては、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、金融引締めやエネルギー情勢に伴う影響等による下振れリスクの高まりに留意する必要がある。

### (2) IMF (国際通貨基金)の世界経済見通し (2022.10)

世界経済は、複数の課題に直面し混沌としている。インフレ率が数十年ぶりの高水準にあることや、大半の地域で金融環境が引き締まっていること、ロシアのウクライナ侵攻、長引く新型コロナウイルスのパンデミックがすべて、経済見通しに重くのしかかっている。



## 【予測（実質GDP）】

(単位：%)

	2021年	2022年 (予測)	2023年 (予測)
世界	6.0	3.2	2.7
先進国・地域	5.2	2.4	1.1
日本	1.7	1.7	1.6
米国	5.7	1.6	1.0
ユーロ圏	5.2	3.1	0.5
ドイツ	2.6	1.5	▲0.3
イギリス	7.4	3.6	0.3
新興・途上国	6.6	3.7	3.7
中国	8.1	3.2	4.4
インド	8.7	6.8	6.1

世界経済の成長率は、2021年の6.0%から2022年には3.2%、2023年には2.7%へと鈍化する見込みである。

これは、世界金融危機と新型コロナのパンデミックが深刻だった一時期を除いて、2001年以降で最も弱い成長の推移となる。2022年上半期の米国経済の収縮、2022年後半のユーロ圏経済の収縮、不動産部門の危機が高まる中国での新型コロナの感染拡大とロックダウンの長期化など、経済大国の大幅な減速を反映する。

世界のインフレ率は、2021年の4.7%から2022年には8.8%に上昇する見込みだ。しかし2023年には6.5%、2024年には4.1%に低下すると予測されている。

### 3 県内経済の見通し

#### (1) 日銀秋田支店 秋田県内「全国企業短期経済観測調査」(2022.12.14)

県内145社（うち製造業51社、非製造業94社）の業況判断指数（「良い」－「悪い」・%ポイント）は、次のとおりである。

	2022年9月調査		2022年12月調査	
	最近	12月予測	最近	3月予測
製造業	6	4	▲6	▲2
非製造業	▲3	▲6	11	▲5
全産業	0	▲3	6	▲4

12月調査の業況判断指数(DI)は、製造業で▲6、非製造業で11、全産業で6となり、非製造業および全産業では改善が進んだ。DIのプラスが大きい業種は、「対事業所サービス」(50)、「宿泊・飲食サービス」(40)、「運輸・郵便」(17)など非製造業に多い。一方、マイナスが大きい業種は、「鉄鋼・金属」(▲40)、「木材・木製品」(▲25)、「卸売」(▲20)などである。

先行き(3月予測)は、製造業(▲2)、非製造業(▲5)、全産業(▲4)がすべて悪化するとの予測である。DIの変化幅をみると、「宿泊・飲食サービス」(▲60)、「対事業所サービス」(▲37)など、非製造業における大幅悪化が目立つ。業況の先行きについては、原材料価格の上昇やコロナ感染の現状から、非製造業を中心に慎重な見方が多いと考えられる。

今年度の設備投資は、全産業で前年度比56.4%増、製造業で同73.9%増と、前年度実績(全産業で11.0%増、製造業で10.2%増)を大幅に上回る積極的な計画である。

仕入価格判断指数(DI、「上昇」－「下落」)は、12月調査では製造業(73)、非製造業(67)とも極めて高い水準にあり、先行きも両者が69と高水準が続く見通しである。

雇用人員判断指数(DI、「過剰」－「不足」)は、全産業で12月調査が▲38、先行きは▲41となり、深刻な人手不足状態が続くとの見通しである。

## (2) 県内主要業界団体アンケート結果

a 「2022年の業界の業況」および「2023年の業界の業況見通し」

15団体から回答していただいた業況および業況見通しは、次のとおりである。詳細は後掲「県内業界団体に聞く新年景気見通し」を参照いただきたい。

2022年の業況		2023年の業況見通し	
好況	0業界	好転	0業界
やや好況	5業界	やや好転	4業界
変わらない	3業界	変わらない	6業界
やや不況	7業界	やや悪化	5業界
不況	0業界	悪化	0業界

2022年の業況は、「やや不況」が7業界と全業界の約半数を占め、エネルギー・食料等の価格高騰、円安による輸入コスト上昇、新型コロナウイルス感染症の拡大などが影響したものと考えられる。前年(2021年)の業況は「不況」(3業界)と「やや不況(4業界)」が合わせて7業界であったことからすると、2022年の業況は底上げされ「景気の谷」を脱しつつあるようだ。一方、「やや好況」は5業界となった。前年の「好況(3業界)」と「やや好況(1業界)」を合わせた4業界を上回ったものの、「好況」の業界がなくなり、勢いに陰りがみられる。

2023年の業況見通しは、「変わらない」が6業界と最も多くなった。昨年(2022年)の業況見通しでも「変わらない」が8業界を占め最多となっており、プラス材料とマイナス材料が交錯する中で、業況の先行きを見通すことが非常に難しくなっていると推察される。また、「やや好転」は4業界と昨年(3業界)よりも増加した。一方、「やや悪化」は5業界となり昨年(4業界)を上回った。全体では、昨年よりも2極分化の傾向が少し強まった。

b 2023年の県内景気見通し

自業界の業況見通しとは別に、「2023年の県内景気見通し」についても回答していただいたが、その結果は次のとおりである。(カッコ内は昨年の回答結果)

好転	0業界 (0業界)
やや好転	3業界 (9業界)
変わらない	10業界 (6業界)
やや悪化	2業界 (0業界)
悪化	0業界 (0業界)

全業界の3分の2に相当する10業界が「変わらない」を見込んでおり、昨年(6業界)よりも大幅に増加した。また、昨年は「やや悪化」と「悪化」はゼロであったが、今回は「やや悪化」が2業界となった。

全体では昨年よりも下方遷移しており、2023年の県内景気については慎重な見方が広がっている。

c 国内外および県内経済・社会における重大関心事

自由記述でお聞きした重大関心事のうち、回答数が上位の事項は、次のとおりである。

- ・円安やエネルギー価格高騰による物価高・コスト上昇とその影響 (13業界)
- ・人手不足、人件費上昇、働き方改革への対応 (9業界)
- ・SDGsやカーボンニュートラルへの対応 (7業界)
- ・ウクライナ侵攻の動向 (7業界)
- ・新型コロナの状況と収束時期、ウイズコロナ (6業界)



## 【参考】 昨年の重大関心事

- |                               |        |
|-------------------------------|--------|
| ・ 新型コロナへの対応、対策                | (7 業界) |
| ・ 新型コロナの経済への影響と収束時期           | (6 業界) |
| ・ DX (デジタルトランスフォーメーション) への取組み | (6 業界) |
| ・ 原油・資源の高騰とその影響               | (5 業界) |
| ・ 人材確保と働き方改革                  | (5 業界) |

物価・コスト上昇および人手不足・人件費上昇に関する事項が上位を占めた。これらは企業の収益や事業展開に直結する事項だけに、強い関心が寄せられたと思われる。また、広い意味で「企業の社会的責任」といえるSDGsやカーボンニュートラルへの関心が高いほか、資源・エネルギー価格などに影響を及ぼしているウクライナ侵攻に対する注目度も高い。

昨年は新型コロナウイルス感染症に関する事項が上位を占めたが、今年はウイズコロナの流れが強まる中で関心が低下している。

以上のほか、自業界独自のものを含めて、数多くの重大関心事があげられているが、詳細は後掲「県内業界団体に聞く新年景気見通し」を参照いただきたい。

## 4 当研究所の見通し

### (1) 国内景気の見通し

2023年は、ウイズコロナによって社会経済活動の正常化が進み、約60兆円とも言われる過剰貯蓄を背景とした個人消費の拡大や、先送りされてきた設備投資の実現などが期待される。

一方で、物価上昇による消費回復の遅れや、人手不足・供給制約による生産の停滞が強く懸念される。また、インフレに苦しむ米国と欧州諸国は、経済の低迷が避けられない。

以上から、2023年の国内景気は、回復が続くものの個人消費や外需がやや落ち込み、昨年よ

りも減速するとみられる。

なお、2023年における実質GDP成長率は、大手シンクタンクを中心に1%台前半の予想となっている。

### (2) 県内景気の見通し

2023年における個人消費や生産・投資活動は、全国と同じような状況で推移しよう。

製造業では、主力の電子部品・デバイス産業が昨年と比べやや悪化する見通しにあるなど、製造業全体では若干の落ち込みが見込まれる。また、非製造業は、対面型サービス業の持ち直しなどにより、全体では回復基調で推移しよう。

以上から、2023年の県内景気は、全国と同様、プラス成長となるものの昨年を下回る水準になるとみられる。

## 5 さいごに

昨年の12月22日、能代港において国内初の商業ベースでの大型洋上風力発電事業が始まった。まさに、洋上風力発電「元年」を迎えたと言えよう。

周知のとおり、今後も洋上風力発電事業は、本県沖で次々と展開される。この巨大なビジネスチャンスを生かせるかどうか、将来の県内産業の発展を大きく左右すると言っても過言ではない。このため、県では「新秋田元気創造プラン」(2022~25年度)において「カーボンニュートラルへの挑戦」を選択・集中プロジェクトの一つとし、その主な取組の中に「洋上風力発電等のサプライチェーンへの県内企業の参入に向けた発電事業者とのマッチングと人材育成への支援」を掲げている。

既に参入に向けた具体的な動きもみられ、今後、多くの県内企業が洋上風力発電事業にかかわっていくことを心から期待したい。

(相原 学)